

平成 25 年病虫害の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課
農産安全管理課農薬対策室

I 天候経過の状況 (気象庁報道発表資料より抜粋, 図-1)

1 冬期間 (平成 24 年 12 月～平成 25 年 2 月) の天候

(1) 平均気温

北日本から西日本にかけて、寒気の影響により気温が低い日が多く、冬の平均気温は低かった。北・東日本では 2 年連続、西日本では 3 年連続の寒冬となった。

(2) 降水量および日照時間

冬型の気圧配置となった日が多かったため、北日本から西日本にかけての日本海側では降水量が多く、北日本日本海側の日照時間は少なかった。また、低気圧の影響を受けやすかったため、北日本太平洋側、西日本太平洋側でも降水量が多かった。

北日本では、寒気の影響により低温となった日が続き、日本海側を中心に降雪量が多かった。このため、青森県の酸ヶ湯で積雪の深さが 566 cm となるなど、北日本日本海側を中心にアメダス 12 地点で年最深積雪の大きいほうからの 1 位の値を更新し、記録的な積雪となった。

2 春期間 (平成 25 年 3 月～5 月) の天候

(1) 平均気温

3 月から 4 月はじめにかけてと 5 月中旬以降は南からの暖かい空気に覆われ、東・西日本を中心に高温となった一方、4 月中旬から 5 月上旬にかけては寒気の影響により全国的に低温となるなど、気温の変動が大きかった。

(2) 降水量および日照時間

東・西日本では高気圧に覆われ晴れた日が多かったため、春の降水量は西日本でかなり少なく、日照時間は東・西日本でかなり多くなった。西日本太平洋側の降水量は、春としては統計を開始した 1946 年以降最も少ない値を更新した。また東日本太平洋側と西日本の日照時間は、春としては統計を開始した 1946 年以降最も多い値を更新した。また、10 地点で春の降水量の少ないほうからの一位を、36 地点で春の日照時間の多いほうからの一位を更新した。

北日本日本海側では期間を通じて寒気や気圧の谷の影響

を受けやすく、曇りや雨または雪の日が多かった。このため、北日本日本海側では、春の日照時間はかなり少なくなった。

3 夏期間 (平成 25 年 6 月～8 月) の天候

(1) 平均気温

太平洋高気圧が日本の南海上から西日本付近で強かったことなどから、夏の平均気温は、全国的に高く、東・西日本と沖縄・奄美ではかなり高かった。特に西日本では +1.2℃ と 1946 年の統計開始以来第 1 位の高温となった。全国気象官署のうち 26 地点で夏の平均気温の高い値を更新した。なお、8 月 12 日には、江川崎 (高知県) で観測した日最高気温 41.0℃ が歴代全国 1 位となった。

(2) 降水量および日照時間

太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多く湿った気流の影響を受けにくかったため、東日本太平洋側、沖縄・奄美では夏の降水量がかなり少なかった。一方で、梅雨前線や湿った気流の影響を受けやすかった東日本日本海側と東北日本海側でかなり多かった。

北日本から西日本の日本海側は西よりの湿った気流が入りやすく、7 月 28 日は山口県や島根県で、8 月 9 日は秋田県や岩手県で、8 月 24 日は島根県で記録的な豪雨となり、河川の増水や土砂災害が発生した。そのほかの地方でも、局地的に非常に激しい雨となる日があった。

4 秋期間 (平成 25 年 9 月～11 月) の天候

(1) 平均気温

9 月から 11 月上旬にかけては、日本の東海上の高気圧の勢力が平年より強く、また、日本付近の偏西風が平年に比べ北寄りを流れたため、北日本から西日本にかけて気温が高く、特に 10 月上旬は記録的な高温となった。一方、11 月中旬以降は、強い寒気が日本付近に流れ込んだため、東・西日本と沖縄・奄美では気温が平年を下回る日が多くなった。

(2) 降水量および日照時間

降水量は、9 月から 10 月にかけては、秋の台風の日本への接近数が 9 個と 1951 年以降では 1966 年と並んで最も多くなったことと秋雨前線の影響で、北日本から西日本の広い範囲で平年を上回った。11 月に入ってから、低気圧や冬型の気圧配置の影響で、日本海側で降水量が多く、北・東日本日本海側ではかなり多くなった。

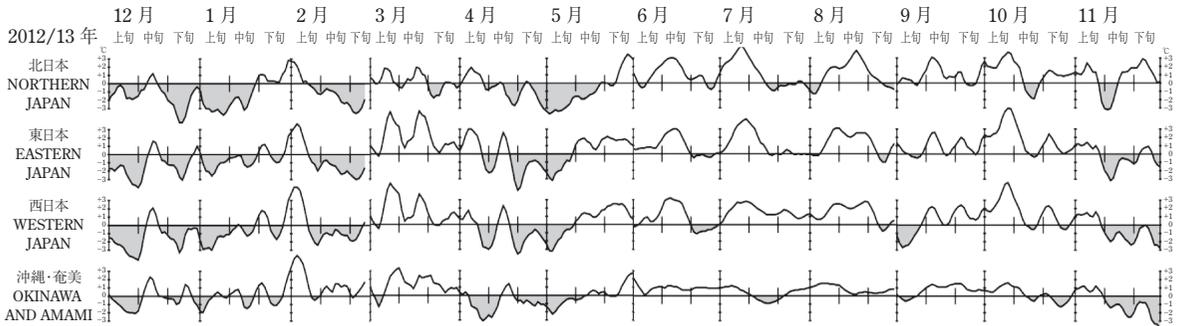


図-1 地域別平均気温平年差の経過 (5日移動平均)

(気象庁報道発表資料から抜粋)

このため、秋の降水量は北・西日本と東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。

日照時間は、9月中旬から下旬にかけて高気圧に覆われることが多かったことや、11月中旬以降は冬型の気圧配置の日が多かったため、東・西日本と沖縄・奄美で多く、特に東日本太平洋側ではかなり多かった。

II 作物別の病害虫発生状況の概要 (表-1)

1 水稻病害虫 (表-2 (1) ①; 図-2)

病害: 縞葉枯病は、冬期の調査において、ヒメトビウンカ越冬虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率が高かったことから、春期以降に本病の発生が多くなることが懸念され、関東および近畿の4県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。また、9月に縞葉枯病の発生が多くなったことから、関東の1県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

いもち病は、7月中旬から8月上旬に雨が多く、本病の発生に適した天候が続いたことから、北海道、東北、近畿および中国の一部地域で葉いもちの発生が多く、穂いもちの発生が懸念されて11県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

害虫: ウンカ類の飛来は、セジロウンカ、トビイロウンカともに平年より少ない地域が多かったが、トビイロウンカについては、8月以降、本田内の発生量が九州地方を中心にかなり多く、増殖率の高い短翅型雌成虫が確認され、つば枯れなどの被害も発生したことから、5県から警報、14県から延べ18件の注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

斑点米カメムシ類は、6月下旬から8月上旬に北海道から中国にかけて発生が多く認められ、1県から警報、23道府県から延べ27件の注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

なお、10月15日現在における水稻の作柄 (平成25

年10月30日農林水産省大臣官房統計部公表)は、全もみ数が増じてやや多いないし平年並みとなり、登熟はウンカなど病害虫の影響などがあつた中国、四国および九州を除きおおむね順調に推移したことから、全国の10a当たり予想収量は539kg (作況指数102)が見込まれた。

農業地域別の作況指数は、北海道が105、東北103、北陸102、関東・東山102、東海102、近畿102、中国99、四国100、九州97および沖縄91であった。

2 その他普通作物病害虫 (表-2 (1) ②)

害虫: 大豆のハスモンヨトウは、8月以降に、本虫の発生に適した高温小雨の天候が続いたことから、東海、中国および四国の4県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

3 果樹病害虫 (茶を含む) (表-2 (1) ③)

病害: なし黒星病は、4月中旬から5月下旬に雨が多く、東北および東海で発生が多く認められ、2県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

ももせん孔細菌病は、5月に東北および近畿で発生が多く、2県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

害虫: 果樹カメムシ類は、9月以降に第一世代成虫が果樹園に多く飛来することが懸念されて5県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

4 野菜および花き (表-2 (1) ④)

害虫: いちごのダゲニ類は、2月上旬から3月中旬に東北、東海および九州で発生が多く、4県から注意報が発表され、また、8月下旬と10月上旬に東海で発生が多く、2県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

オオタバコガは、8月中旬から9月上旬に関東、東海および四国で発生が多く、3県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

ハスモンヨトウは、9月上旬から10月上旬に東海、近畿、中国および四国で発生が多く、5県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

表-1 病虫害発生・防除状況（平成 25 年 10 月 1 日現在速報値）

（単位：千 ha，％）

病虫害名	概評	発生面積 (注1) /前年比	延べ防除面積 (注2) /前年比	ハダニ類 (ナシ)	北海道および北陸の一部地域でやや多い	7 (79.2)	124 (108.6)
(イネ)				黒斑病	中国の一部地域で多い、北陸および近畿の一部地域でやや多い	1 (104.9)	39 (99.6)
粟いもち	四国の一部地域で多い、東北の一部地域で多い～やや多い、近畿、中国および九州の一部地域でやや多い	259 (107.4)	1,365 (101.0)	黒星病	北九州の一部地域で多い、東北の一部地域で多い～やや多い、南関東、東海、近畿、中国および四国の一部地域でやや多い	5 (96.1)	110 (101.2)
穂いもち	九州の一部地域で多い～やや多い、東海、近畿、中国および四国の一部地域でやや多い	243 (118.9)	1,311 (104.0)	ナシヒメシクイ	北関東および近畿の一部地域で多い、北陸、四国および北九州の一部地域でやや多い	1 (76.8)	60 (120.6)
紋枯病	甲信および東海の一部地域で多い、北東北、関東、北陸および北九州の一部地域で多い～やや多い、北海道、近畿および四国の一部地域でやや多い	473 (111.1)	707 (112.0)	ハダニ類	北陸および東海の一部地域で多い、関東の一部地域で多い～やや多い、近畿、中国および九州の一部地域でやや多い	6 (120.2)	36 (102.4)
白葉枯病	南関東の一部地域でやや多い	6 (73.8)	59 (96.2)	カメムシ類	南東北および北九州の一部地域でやや多い	1 (40.9)	21 (92.6)
ばか苗病	北東北の一部地域で多い、北海道、北陸、東海、近畿および南九州の一部地域でやや多い	19 (141.0)	873 (99.9)	アブラムシ類	北関東、四国および北九州の一部地域でやや多い	6 (134.3)	37 (134.6)
もみ枯細菌病	中国の一部地域で多い、九州の一部地域で多い～やや多い、南東北、東海、近畿および四国の一部地域でやや多い	78 (204.1)	152 (86.1)	(モモ)			
縞葉枯病	関東の一部地域で多い～やや多い、東海および近畿の一部地域でやや多い	102 (159.2)	176 (92.5)	せん孔細菌病	南東北の一部地域で多い、近畿の一部地域でやや多い	3 (97.2)	43 (103.9)
稲こうじ病	南東北、東海および北陸の一部地域でやや多い	123 (180.6)	57 (99.7)	灰星病	北陸および四国の一部地域で多い	1 (110.9)	38 (101.0)
ニカメイガ	北陸の一部地域で多い、北関東、東海、近畿、中国および南九州の一部地域でやや多い	148 (128.3)	622 (108.3)	晩腐病	北関東、北陸および中国の一部地域でやや多い	1 (92.4)	41 (95.0)
セジロウンカ	北東北の一部地域で多い、東海、南九州および沖縄の一部地域でやや多い	658 (91.4)	1,228 (105.8)	べと病	東北の一部地域でやや多い	4 (91.7)	56 (95.0)
トビイロウンカ	四国の一部地域で多い、近畿、中国および九州の一部地域で多い～やや多い、北東北、南関東および東海の一部地域でやや多い	231 (202.5)	1,005 (118.1)	灰色かび病	北九州の一部地域でやや多い	1 (80.3)	33 (99.3)
ヒメトビウンカ	東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国および九州の一部地域で多い～やや多い、甲信の一部地域でやや多い	812 (134.2)	1,266 (117.0)	(カキ)			
ツマグロヨコバイ	東海の一部地域で多い～やや多い、南関東、四国および九州の一部地域でやや多い	502 (109.2)	844 (105.8)	うどんこ病	東海および北九州の一部地域でやや多い	6 (87.5)	51 (98.8)
イネドロオシムシ	近畿および九州の一部地域でやや多い	164 (101.0)	629 (117.1)	落葉病類	北関東の一部地域で多い、四国の一部地域でやや多い	4 (86.2)	48 (104.2)
斑点米カメムシ類	関東の一部地域で多い、東北、東海、近畿、中国および四国の一部地域で多い～やや多い、九州の一部地域でやや多い	541 (113.9)	1,407 (112.2)	カメムシ類	四国および北九州の一部地域で多い、南東北および東海の一部地域でやや多い	4 (43.3)	37 (96.2)
アワヨトウ	北東北の一部地域で多い、南関東および東海の一部地域でやや多い	27 (279.0)	62 (103.4)	カキクダアザミマ	近畿の一部地域でやや多い	1 (114.2)	27 (93.0)
コブノメイガ	北東北の一部地域で多い、北陸および四国の一部地域で多い～やや多い、近畿の一部地域でやや多い	290 (208.2)	496 (112.6)	(チャ)			
イネミズゾウムシ	南関東の一部地域で多い、東海、四国および南九州の一部地域でやや多い	477 (102.3)	711 (121.2)	炭そ病	近畿の一部地域で多い	24 (73.9)	83 (111.2)
(ムギ類)				チャノコカクモン	関東の一部地域で多い～やや多い、東海および近畿の一部地域でやや多い	15 (89.8)	74 (100.4)
さび病類	北海道および東海の一部地域で多い、北東北の一部地域でやや多い	41 (524.4)	223 (107.6)	ハマキ	九州の一部地域で多い～やや多い、東海の一部地域でやや多い	21 (77.0)	78 (106.1)
うどんこ病	東海の一部地域で多い	15 (100.9)	236 (100.8)	カンザワハダニ	九州の一部地域で多い～やや多い、東海の一部地域でやや多い	21 (77.0)	78 (106.1)
赤かび病	平年並～少ない	24 (28.7)	528 (317.8)	(キュウリ)			
雪腐病類	東北の一部地域でやや多い	56 (80.5)	104 (102.2)	べと病	関東および九州の一部地域で多い～やや多い、南東北および近畿の一部地域でやや多い	3 (107.1)	26 (115.7)
(ジャガイモ)				うどんこ病	関東の一部地域で多い～やや多い、中国、四国および北九州の一部地域でやや多い	3 (92.6)	24 (109.7)
疫病	平年並～少ない	10 (45.3)	409 (99.8)	(スイカ)			
(ダイズ)				つる枯病	東北、北陸および近畿の一部地域でやや多い	2 (228.1)	24 (114.2)
葉斑病	平年並～少ない	1 (128.3)	41 (77.4)	(ハクサイ)			
べと病	東海および近畿の一部地域で多い、北関東および九州の一部地域でやや多い	36 (99.6)	20 (96.1)	軟腐病	北海道の一部地域で多い	1 (73.5)	18 (98.7)
葉焼病	北陸、近畿および九州の一部地域でやや多い	17 (96.7)	—	白斑病	中国の一部地域でやや多い	0.2 (42.4)	11 (97.7)
アブラムシ類	南九州の一部地域で多い、関東の一部地域で多い～やや多い	16 (83.3)	22 (58.5)	(キャベツ)			
ハスモンヨトウ	北陸および東海の一部地域でやや多い	28 (89.0)	70 (113.5)	黒腐病	南関東の一部地域で多い	1 (72.6)	17 (100.1)
ハダニ類	東海および北陸の一部地域で多い、北関東、近畿および北九州の一部地域でやや多い	11 (84.4)	0 (101.7)	コナガ	北東北、甲信、中国および南九州の一部地域でやや多い	3 (100.5)	31 (101.6)
カメムシ類	南九州の一部地域で多い、北陸および中国の一部地域でやや多い	21 (84.9)	73 (105.1)	(タマネギ)			
(カンキツ類)				べと病	中国の一部地域で多い、北九州の一部地域で多い～やや多い、北関東および近畿の一部地域でやや多い	3 (94.8)	16 (113.4)
そうか病	南関東、四国および南九州の一部地域でやや多い	7 (85.8)	86 (110.3)	(野菜共通)			
黒点病	南関東の一部地域で多い、近畿、四国および南九州の一部地域でやや多い	44 (97.6)	220 (99.1)	疫病	すいか：南東北の一部地域でやや多い、トマト：北九州の一部地域でやや多い いちご：中国の一部地域でやや多い、トマト：四国の一部地域で多い、北東北、南関東、東海、中国および北九州の一部地域でやや多い、レタス：北九州の一部地域でやや多い いちご：北関東の一部地域で多い～やや多い、東海、四国および九州の一部地域でやや多い、さといも：南関東の一部地域で多い、すいか：北陸の一部地域で多い、近畿の一部地域でやや多い、なす：北陸の一部地域で多い、関東および四国の一部地域で多い～やや多い、南九州の一部地域でやや多い	1 (140.0)	17 (115.7)
かいよう病	沖縄の一部地域でやや多い	14 (83.6)	91 (99.7)	灰色かび病	すいか：中国の一部地域でやや多い、トマト：四国の一部地域で多い、北東北、南関東、東海、中国および北九州の一部地域でやや多い、レタス：北九州の一部地域でやや多い いちご：北関東の一部地域で多い～やや多い、東海、四国および九州の一部地域でやや多い、さといも：南関東の一部地域で多い、すいか：北陸の一部地域で多い、近畿の一部地域でやや多い、なす：北陸の一部地域で多い、関東および四国の一部地域で多い～やや多い、南九州の一部地域でやや多い	3 (107.1)	47 (105.1)
ヤブネカイガラムシ	南関東、四国および北九州の一部地域でやや多い	5 (124.2)	78 (110.1)	ハダニ類	北陸および東海の一部地域でやや多い	7 (143.3)	46 (111.0)
ミカンハダニ	中国の一部地域で多い、東海の一部地域でやや多い	37 (87.7)	161 (96.2)	ハスモンヨトウ	いちご：南東北の一部地域でやや多い、さといも：近畿および南九州の一部地域でやや多い、なす：東海の一部地域でやや多い、レタス：北関東の一部地域で多い、北九州の一部地域でやや多い	3 (136.6)	22 (127.7)
カメムシ類	近畿および四国の一部地域で多い、北九州の一部地域でやや多い	8 (55.1)	33 (133.0)	ヨトウガ	平年並～少ない	1 (76.0)	27 (88.2)
(リンゴ)				(キク)			
モリニア病	平年並～少ない	1 (95.6)	51 (98.9)	白さび病	中国の一部地域で多い、九州の一部地域で多い～やや多い	0.2 (77.6)	5 (102.2)
斑点落葉病	東海および中国の一部地域でやや多い	6 (101.8)	281 (98.8)	アザミウマ類	東海および南九州の一部地域で多い、北関東、中国、四国および沖縄の一部地域でやや多い	0.7 (131.7)	9 (160.2)
黒星病	北東北の一部地域でやや多い	2 (89.8)	212 (99.0)	アブラムシ類	中国の一部地域で多い、東海の一部地域で多い～やや多い、南東北、近畿および四国の一部地域でやや多い	0.7 (222.1)	8 (196.4)
腐らん病	南東北の一部地域でやや多い	4 (95.3)	55 (98.9)				
ハマキムシ類	平年並～少ない	1 (75.6)	156 (99.1)				

注 1：標本抽出された調査地点ごとに定められた調査方法に従い病虫害発生度（無，少，中，多，甚の 5 段階）を算出し，調査地区内の栽培面積を各発生程度の割合に乗じて発生程度別面積を算出。無発生を除く。発生程度別面積「少」～「甚」を合算した数値。

注 2：当該病虫害を対象として複数回防除を実施した場合や 2 種類以上の病虫害を対象とする混合剤による防除を実施した場合は，その回数や剤数を乗じて散布面積を算出した数値。

表-2 平成 25 年発生予察情報(警報・注意報・特殊報)の発表状況

(1) 警報・注意報(注:数字は発表月日,斜体アンダーラインは警報)

(1月1日～11月30日)

①イネ		葉いもち	穂いもち	いもち病	斑点米カメムシ類	その他の病害虫
北海道				7/12	8/2	
東北	青森		7/30			2/12 細菌病類(もみ枯細菌病, 苗立枯細菌病) 5/24 イネミギワバエ, 8/1 紋枯病
	岩手		7/26		7/5, 7/31	
	宮城		7/29		7/11, <u>8/8</u>	
	秋田				7/4, 7/25	
	山形		7/30		6/28	
福島		7/31				
関東	茨城				7/30	6/17 縞葉枯病(ヒメトビウンカ) 5/31 ヒメトビウンカ(縞葉枯病), 9/2 ヒメトビウンカ(縞葉枯病, 黒すじ萎縮病) 8/9 トビイロウンカ 3/29 ヒメトビウンカ(縞葉枯病)
	栃木				7/19	
	群馬				7/19	
	埼玉				7/10	
	千葉				7/30	
東京都					8/7	
神奈川県					7/3, 8/2	
北陸	新潟				7/1, 7/16	
	富山				7/5	
	石川				7/12	
東海	福井				7/10	
	岐阜				7/18	
近畿	愛知				7/2	6/26 縞葉枯病(ヒメトビウンカ) 9/2 トビイロウンカ 9/10 トビイロウンカ
	三重				7/17	
	滋賀		8/8		7/5	
	京都		7/29			
中国四国	大阪					8/9 トビイロウンカ 8/12 トビイロウンカ, 9/3 トビイロウンカ 9/2 トビイロウンカ 9/12 トビイロウンカ
	兵庫県				7/30	
	奈良				7/19	
	和歌山				7/16	
	鳥取		7/30		7/1	
	岡山					
	広島					
	山口					
九州	徳島					8/1 トビイロウンカ, 8/28 トビイロウンカ, <u>9/25 トビイロウンカ</u> 8/21 トビイロウンカ, <u>9/20 トビイロウンカ</u> 8/19 トビイロウンカ, <u>9/4 トビイロウンカ</u> 8/6 トビイロウンカ, 9/10 トビイロウンカ 8/23 トビイロウンカ, <u>9/6 トビイロウンカ</u> 8/2 トビイロウンカ, <u>8/16 トビイロウンカ</u> 8/8 トビイロウンカ, 8/29 トビイロウンカ
	香川					
	愛媛					
	高知					
	福岡				7/25	
沖縄						

(1月1日～11月30日)

②畑作 (イネを除く)		ハスモンヨトウ	その他の病害虫
北海道			
東北	青森	森	
	岩手	手	
関東	宮城	城	
	秋田	田	
北陸	山形	形	
	福島	島	
東海	茨城	城	
	栃木	木	
近畿	群馬	馬	
	埼玉	玉	
中国四国	千代田	葉	
	東京	京	
九州	神奈川	川	
	山梨	梨	
沖縄	長野	野	
	静岡	岡	
北海道	新潟	潟	
	富山	山	
東海	石川	川	
	福井	井	
近畿	岐阜	阜	9/12 (大豆)
	愛知	知	8/16 オオタバコガ (大豆)
中国四国	滋賀	賀	
	京都	都	
九州	大阪	阪	
	兵庫	庫	
中国四国	奈良	良	
	和歌山	山	
中国四国	鳥取	取	
	島根	根	
九州	岡山	山	
	広島	口	
中国四国	山口	島	9/3 (大豆)
	徳島	川	10/2 (大豆)
九州	香川	媛	9/9 ヨトウムシ類, オオタバコガ (大豆)
	愛媛	知	
九州	高知		
	福岡		
九州	佐賀		
	長崎		
九州	熊本		
	大分		
九州	宮崎		
	鹿児島		
沖縄			

(1月1日～11月30日)

③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類	その他の病害虫
北 海 道			
東 北	青森		
	岩手		
東 北	宮城		
	秋田		
東 北	山形		
	福島		5/10 せん孔細菌病 (もも), 5/31 黒星病 (なし)
関 東	茨城		
	栃木		
関 東	群馬		
	埼玉		
関 東	千葉		
	東京		
関 東	神奈川		8/5 アメリカシロヒトリ (樹木類)
	山梨		3/4 かいよう病 (中晩柑類, うんしゅうみかん)
北 陸	新潟		
	富山		
北 陸	石川		
	福井		
東 海	岐阜	9/5 (かき, なし, りんご, みかん, もも等)	
	愛知	9/19 (かんきつ, かき等)	4/16 黒星病 (なし)
東 海	三重		
近 畿	滋賀		
	京都		
近 畿	大阪		
	兵庫		
近 畿	奈良		
	和歌山	9/24 (かんきつ), 10/18 (かんきつ, かき, キウイフルーツ)	5/30 せん孔細菌病 (もも)
中 国	鳥取		
	島根		6/24 黒斑病 (なし)
中 国	岡山		
	広島	10/15 (果樹全般)	
中 国	山口		
	徳島	10/9 (かんきつ, かき等)	6/5 ネギアザミウマ (ハウスミカン)
中 国	香川		
	愛媛		
中 国	高知		
九 州	福岡	9/30 (かき, かんきつ, なし等)	
	佐賀		
九 州	長崎		
	熊本		
九 州	大分		
	宮崎		
九 州	鹿児島		
	沖縄		

(1月1日～11月30日)

④野菜・花き		ハスモンヨトウ	その他の病害虫
北海道			5/30 ネギアザミウマ（アブラナ科野菜など）、8/23 褐斑病（てんさい）
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		6/28 タバコガ類（野菜類、花き類）、9/3 べと病、炭そ病（きゅうり） 3/18 ハダニ類（いちご）
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京都 神奈川県 山梨 長野 静岡		5/9 アブラムシ類（作物全般）、8/22 オオタバコガ（野菜、花き類）
北陸	新潟 富山 石川 福井		
東海	岐阜 愛知 三重	9/12（野菜類、花き類） 10/18（野菜類）	9/9 灰色かび病（トマト）、10/15 タバココナジラミ（トマト） 2/4 ハダニ類（いちご）、8/16 オオタバコガ（キャベツ、きく）、10/1 ハダニ類（いちご）、 10/31 ミナミキイロアザミウマ（なす） 2/14 ハダニ類（いちご）、8/29 ハダニ類（いちご）
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫県 奈良 和歌山	9/26（野菜類、露地さく）	5/15 アブラムシ類、ウイルス病（野菜全般） 10/29 ウラナミシジミ、オオタバコガ（実えんどう、さやえんどう）
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	9/3（野菜類、花き類） 10/2（野菜、花き類）	5/2 べと病（たまねぎ） 7/1 ハダニ類（かんしょ）、9/9 ヨトウムシ類、オオタバコガ（野菜類、花き類）、11/5 ミナミ キイロアザミウマ（冬春なす） 2/27 春腐病（にんにく）、6/5 うどんこ病（いちご）、6/5 ネギアザミウマ（野菜類、花き類）
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		4/10 べと病（たまねぎ） 3/4 ハダニ類（いちご） 11/8 タバココナジラミ（トマト、ウリ科野菜）
沖縄			

(2) 特殊報

(1月1日～11月30日)

		①普通作	②果樹類 (茶を含む)	③野菜類 (花き類含む)
北海道				
東北	青森 森手			8/26 ルイスコメツキモドキ, クロアシコメツキモドキ(わらび), 11/26 輪紋病 (オクラ)
	宮城 秋田 山形 福島			2/26 フサクビヨトウ (カーネーション), 8/29 アワダチソウゲ ンバイ (きく, なす, ひまわり) 10/31 プラタナスグンバイ (プラタナス) 11/29 黄化病 (トマト), 11/29 クロメンガタズメ (トマト)
関東	茨城 城木		1/30 斑入果病 (すもも)	3/15 黄化病 (トマト) 4/22 チャノキイロアザミウマ (新規系統) (トルコギキョウ), 7/1 モトジロアザミウマ (ハイビスカス) 3/28 根腐病 (レース1) (レタス)
	群馬 千葉 東京 神奈川 山梨 長野		8/23 チャトゲコナジラミ (茶)	7/10 黄化病 (トマト) 4/30 葉かび病菌レース2.9 (トマト) 6/3 萎凋病レース3 (トマト) 3/15 縞萎縮病 (大麦), 3/27 果実軟腐病 (すいか), 9/13 黄化 葉巻病 (トマト), 9/13 タバココナジラミ バイオタイプQ (ト マト), 11/29 ナスコナカイガラムシ (ピーマン)
北陸	新潟 富山 石川 福井			2/20 黄化葉巻病 (トマト)
東海	岐阜 愛知 三重		4/16 モザイク病 (いちじく), 6/18 カ ミキリムシ科の一種 (サクラ, ウメ) 6/17 輪紋病 (うめ)	2/4 えそ輪紋病 (トルコギキョウ)
近畿	滋賀 京都 大分 奈良 和歌山		5/27 輪紋病 (うめ)	7/31 茎えそ病 (きく)
中国四国	鳥取 岡山		1/11 モザイク病 (いちじく), 1/11 果 実赤点病 (もも)	7/1 えそ輪紋病 (トルコギキョウ), 9/6 萎凋病レース3 (トマト)
	広島 山形 徳島 香川		5/31 チャトゲコナジラミ (茶) 8/22 クワシロカイガラムシ, トビイ ロマルカイガラムシ (オリーブ) 3/4 ヤノネカイガラムシ (ゆず)	3/1 疫病 (レタス), 3/1 モトジロアザミウマ (ディーフェンバ キア, シンゴニウム (サトイモ科の観葉植物)) 7/29 茎えそ病 (きく)
九州	福岡		6/27 ワタミヒゲナガゾウムシ (ウン シュウミカン)	8/28 モザイク病 (トマト)
	佐賀 長崎 熊本 大分	3/11 ストロビリン系殺菌剤耐性 いもち病菌(水稲)		2/13 えそ条斑病 (にら) 10/16 青枯病 (ショウガ) 5/31 黄化病 (トマト), 5/31 ワタアブラムシ (ネオニコチノイ ド系薬剤に対する感受性低下個体群) (ピーマン (夏秋作))
	宮崎 鹿児島			3/7 チャトゲコナジラミ (ヒサカキ) 3/13 チャトゲコナジラミ (ヒサカキ)
沖縄				

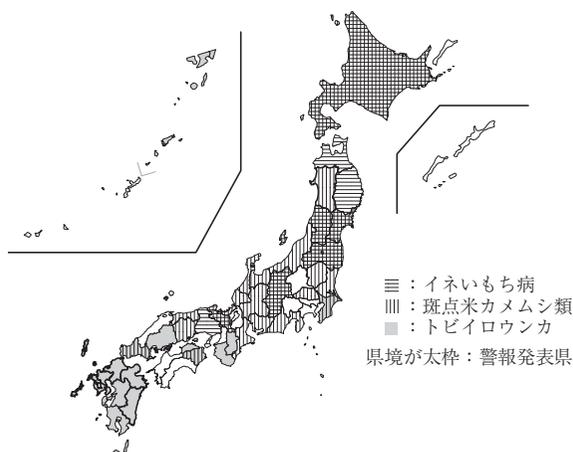


図-2 主な水稲病害虫の警報・注意報発表状況
(平成 25 年 10 月 15 日現在)

本年の特殊報は、11月30日までに都道府県から49件発表されており、そのうち、果樹・茶に関するものは13件、野菜に関するものは22件、花きに関するものは12件あった(表-2(2))。

III 病害虫防除事業

1 ウリミバエおよびミカンコミバエ

ウリミバエおよびミカンコミバエの侵入リスクのある地域において侵入警戒調査を実施するとともに、これら害虫の侵入リスクが特に高い沖縄県においては、ウリミバエに対して不妊虫放飼、ミカンコミバエに対して誘殺板(誘引剤と殺虫剤を染み込ませたもの)を散布することにより、再侵入防止対策を実施している。

なお、沖縄県においては、毎年、ミカンコミバエが侵入警戒調査用トラップに複数回誘殺されており、誘殺が確認された地域では、定着を防止するため、発生調査および誘殺板の散布などの防除対策を強化して対応している。

2 アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシ

鹿児島県の喜界島においては、アリモドキゾウムシを対象として、沖縄県の津堅島においては、アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシを対象として、不妊虫放飼法などによる防除を実施し、根絶防除事業を進めている。

このような中、沖縄県久米島において、平成6年からアリモドキゾウムシを対象に根絶防除事業に着手し、雄除去法(誘引剤および殺虫剤により雄成虫を誘引・殺虫する方法)や不妊虫放飼法(放射線処理により不妊化した虫を放飼し、繁殖機会を減少させる方法)などによる防除を実施するとともに、沖縄県や久米島町の条例によるサツマイモなどの持込規制、さらには地域住民による

事業の周知活動などの支援を受け、事業を進めた結果、平成25年4月、根絶を達成した。

3 カンキツグリーンング病菌

現在、鹿児島県の奄美群島(奄美大島および喜界島を除く。)および沖縄県北部地域においては、両県が感染植物を処分するなどの根絶に向けた取組を進めている。

4 ウメ輪紋ウイルス(プラムポックスウイルス(PPV))

東京都青梅市とその周辺地域において、平成22年2月から緊急防除を実施し、PPVに感染するおそれのある植物の移動禁止、PPVを媒介するアブラムシに対する薬剤散布および調査で特定したPPVの感染植物の処分等の防除により、国内におけるPPVの早期根絶を図ってきた。このような状況の中、平成25年の2~9月に行われた全国的な調査の結果、新たな地域において自然感染の広がりが確認されたことから、平成25年12月現在、東京都青梅市、大阪府富田林市、兵庫県伊丹市等3都府県13市町で緊急防除を実施している。

IV 農林水産航空事業

有人ヘリコプターによる本年度の農林水産航空事業の農業関係の延べ面積は2,470千haとなる見込みである(計画値)。作物別では、水稲では39千ha、水稲以外(果樹、畑作物等)防除で6千ha、その他(播種・施肥等)1千haとなっているほか、ミバエ類の再侵入防止対策として2,423千haとなっている。

無人ヘリコプターによる病害虫防除は、1,023千ha(速報値)で、前年を1.6%上回る見込みである。作物別では、水稲では907千ha、麦では58千ha、大豆では52千ha、その他では6千haとなっている。

V 農薬の出荷状況

平成 25 農薬年度（平成 24 年 10 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日）における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では 0.3% 減の 197 千 t または kl、金額では 1.9% 増の 3,409 億円である（表-3）。

表-3 平成 25 農薬年度農薬出荷状況（推定）

（単位：t, kl, 百万円, %）

用途		平成 24 農薬年度 出荷	平成 25 農薬年度	
			出荷	対前年比
殺虫剤	数量	71,107	70,954	99.8
	金額	101,649	101,376	99.7
殺菌剤	数量	39,752	38,485	96.8
	金額	74,262	74,169	99.9
殺虫殺菌剤	数量	21,671	21,284	98.2
	金額	36,528	38,306	104.9
除草剤	数量	58,987	60,617	102.8
	金額	112,035	116,918	104.4
その他	数量	5,517	5,171	93.7
	金額	10,280	10,181	99.0
合計	数量	197,034	196,512	99.7
	金額	334,754	340,949	101.9

農産安全管理課農薬対策室調査（農薬工業会加盟会社対象）。

（注）端数処理（四捨五入）の関係で、合計欄の数字と足し上げた数字とは必ずしも一致しない。